

## ★ 参加チームのランキング発表!

### 報告数ランキング

チーム名	報告データ数	報告写真数	参加人数
1 山の男 山親爺	266	1	1
2 SIRO	144	137	4
3 あまちゃん	105	22	1
4 れつれつぶ調査隊	77	6	29
5 なおすず	56	8	2
6 石田	40		4
7 ザ・ビートルズ	33		4
8 チーム白土家	25	6	3
8 生き物さがし隊〜新琴似	25	18	4
8 旭山記念公園市民活動協議会	25	8	11

チーム名	報告データ数	報告写真数	参加人数
11 ニジイロクワガタ	21	3	3
11 カーブ	21	14	3
13 Baikada	20	19	2
14 チームサカイ	19	18	5
15 バウムクーヘン	13	9	3
16 チームあんど	12	9	3
16 イソシギ	12	7	1
16 チーム武井	12	12	4
19 onodera	11	10	3
19 ノナック	11		1

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。たくさん  
の報告、写真(イラストも!)ありがとうございました。



生き物さがし隊〜新琴似 (北区)

## ★ 写真コンテストを行いました!

参加者の皆さんには調査報告とともに、今年もきれいな写真や生き物の姿を分かりやすく  
とらえた写真など、たくさんの写真をお送りいただきました。



1位: トノサマバッタ (ヒロムシ)



2位: マガモ親子 (SIRO)

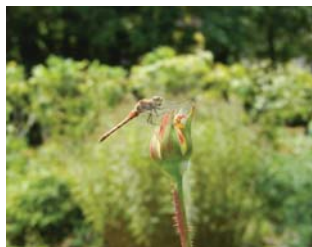


3位: エゾオオマルハナバチ (すみなみAチーム)

全520点の中から事務局  
選考により選ばれた10点  
の写真について、パネル  
展とウェブサイトで人気投  
票を行いベスト3を決めま  
した!! (総投票数: 403票)



ヤマブドウ  
(旭山記念公園市民活動協議会)



ナツアカネ (がんばる隊)



シオカラトンボ (イソシギ)



オオルリボシヤンマ (チーム武井)



ミカドフキバッタ (チームYJ)



オシドリ (チーム白土家)



ハネナガフキバッタ (3人探検隊)

## ★ おわりに

また参加してほしいっコー!

「さっぽろ生き物さがし2017」は、昨年と同様の形で、対象とする生き物を少し変えて実施しました。カモやバッタ、草の実については分布情報が得られ、継続したトンボやマルハナバチについてもデータを積み重ねることができました。調査に参加していただいた方々に感謝いたします。今後も札幌市では、市民の皆さんにご協力いただきながら生き物調査を行っていく予定です。この調査をきっかけに、市内の生き物たちの分布の変化、くらしの変化に注目していただけたら幸いです。



札幌市の生物多様性  
PRキャラクター  
「カッコー先生」

○さっぽろ生き物さがし2017事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル  
☎電話 011 (892) 5306 📠ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

○主催 札幌市環境局環境管理担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階  
☎電話 011 (211) 2879 📠ファクス 011 (218) 5108

✉️電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp 📘フェイスブック <https://www.facebook.com/sapporo.ikimono/>

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/29chosa.html>

発行: 2018年3月



さっぽろ市  
02-302-17-2597  
29-2-1556

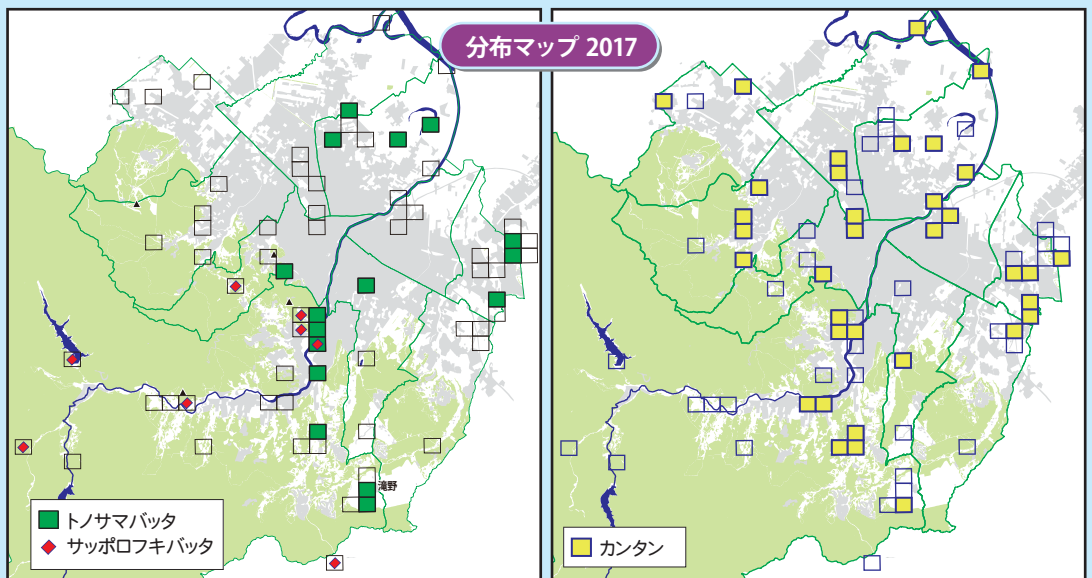
## バッタのなかま

種名	地区数	データ数
・カンタン	35地区	70(11)
・ミカドフキバッタ	21地区	30(16)
・ハネナガフキバッタ	18地区	21(10)
・トノサマバッタ	16地区	23(8)
・サッポロフキバッタ	8地区	9(3)
・ハネナガキリギリス	8地区	9(2)
・ケラ	1地区	2(1)

バッタの仲間では報告が多かったのは、鳴き声がきれいなカンタンでした。平野部から山地まで広く確認されており、生息環境の広さを反映した結果と言えるかもしれません。

フキバッタ3種では、ミカドフキバッタが最も確認されました。ハネナガフキバッタは川沿いの草むらでの確認が多かったようですが、サッポロフキバッタとミカドフキバッタはともに山地での確認が多く、生息環境と対応しています。

大型のトノサマバッタは西部や山地の奥では確認されていません。生息する荒地や草丈の低い草むらが少ないのかもしれない。



## トンボのなかま

種名	地区数	データ数
・アキアカネ	85地区	224(50)
・ノシメトンボ	47地区	66(19)
・ナツアカネ	21地区	35(7)
・オニヤンマ	21地区	27(9)
・シオカラトンボ	18地区	33(18)
・オオルリボシヤンマ	17地区	28(9)
・ルリボシヤンマ	11地区	13(8)
・ミヤマアカネ	9地区	17(8)

トンボのなかまでもっとも確認地区数が多かったのはアキアカネで、平野部から山地まで広く分布していました。同じアカトンボのなかまであるナツアカネとミヤマアカネは、本来平地から丘陵地にかけて生息しますが、今回の調査結果では、ナツアカネは2016年と同様に平野部に偏って確認されました。

ヤンマのなかまでは、オニヤンマがもっとも多く、特に山地に分布していました。ルリボシヤンマのなかまは、より平地に近いところで見られました。

去年と比べると、ノシメトンボとオニヤンマの報告が6割程度と少なくなっており、今回見られにくくなっていたのかもしれない。

